

東海新報

平成 30 年 6 月 7 日

他分野も巻き込み協議

本年度の「未来図会議」始動

陸前高田

東日本大震災後、陸前高田市が掲げる「ノー・マライゼーション」という言葉のいらぬまま「ちぐら」の実現を目指し、継続して議論を交わしてきた同市保健医療福祉未来図会議。

本年度からは保健・医療・福祉分野にとどまらず、商業や観光など業種の垣根を越えて関係者らが考え合うこととなり、誰もが住みよいまちの構築へ協議している。

同会議は、市民誰もが人の輪の中に入り、心の交流が生まれる場づくりを目指す「はまっけらいん、かたてはらいん運動」（略称「はまかた」）を推進し、「ノー・マライゼーション」の実現を目指すもの。

本年度から他分野の関係者も巻き込み議論を交わすこととなった未来図会議＝高田町

本年度から保健・医療・福祉分野以外にも巻き込んで企画・運営することとし、名称は「陸前高田市未来図会議」に変更した。

通算87回目、本年度初回の会議は6月31日に開かれ、45人が参加。同市にとって待望のスポーツ拠点で、交流の場「はまかたスポーツ」

陸前高田青年会議所地域の未来創造委員会の加藤隆史委員長が夢アリーナたかたを活用した子ども向けイベントについて、市生涯学習課の担当職員が夢ア



リーナの施設概要について説明。同市の交流人口増加を通じてまちの活性化を目指す一般社団法人・マルゴト陸前高田の伊藤雅人代表理事は「観光からみた『はまかた』と題して講話した。その後は参加者が「それぞれの『はまかた』をテーマに活発に意見を交換。参加者からは「異なる分野の活動を知ることができて良かった」「新しい出会い、新しい気づきに元気をもらった」といった声が聞かれた。市保健課の担当者は「違う分野の同士が新たにつながり、アドバイスやヒントを共有し、健康や幸せを感じられるまちづくりの実現に向けて議論する場にしていきたい」と意欲を語る。次回は10月の開催を予定している。